

令和6年度第5回ヨコハマeアンケート

魅力あるまちと都市農業に関するアンケート

実施期間 令和6年6月7日（金）から6月17日（月）

事業所管課 みどり環境局 農政推進課

回答者数 1,439人（回答率：30.1%）

【参考】eアンケートメンバー数 4,786人（6月7日時点）

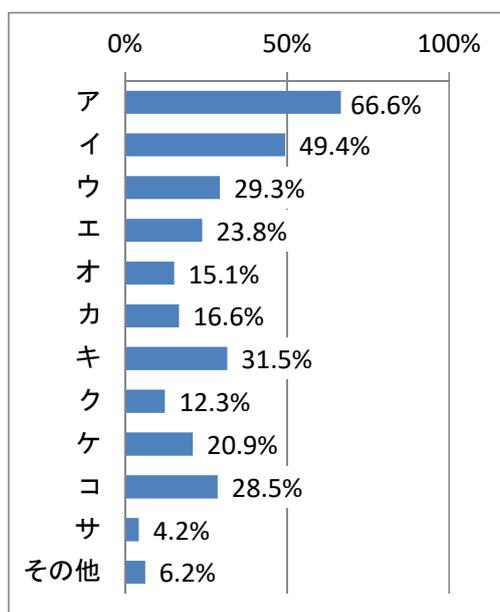
年代別、横浜市内在住・在勤・在学別の回答者構成比

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	計
横浜市内在住	2 (0.1%)	20 (1.4%)	81 (5.6%)	222 (15.4%)	409 (28.4%)	407 (28.3%)	283 (19.7%)	1,424 (99.0%)
横浜市内在勤	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (0.2%)	5 (0.3%)	4 (0.3%)	2 (0.1%)	14 (1.0%)
横浜市内在学	1 (0.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.1%)
計	3 (0.2%)	20 (1.4%)	81 (5.6%)	225 (15.6%)	414 (28.8%)	411 (28.6%)	285 (19.8%)	1,439 (100.0%)

Q1 全員にお聞きします。
 今のお住いの地域について、どのような点を重視して選びましたか。次の項目から選んでください。
 ※「サ 特になし」を選択した場合は、他の回答を選択しないでください。
 （複数選択可）

n = 1,439

ア	電車・バス・道路網等交通の利便性がよい	66.6%	958
イ	日常生活の買い物等の利便性がよい	49.4%	711
ウ	治安がよい	29.3%	421
エ	公共施設・医療機関・福祉施設が充実している	23.8%	342
オ	災害に強い	15.1%	218
カ	子育て・教育がしやすい	16.6%	239
キ	周囲の景観が気に入っている	31.5%	454
ク	職場や通学する学校等がある	12.3%	177
ケ	生まれ育った場所である・地域とのつながりがある	20.9%	301
コ	賃貸・購入物件を見て決めた	28.5%	410
サ	特になし	4.2%	61
その他		6.2%	89



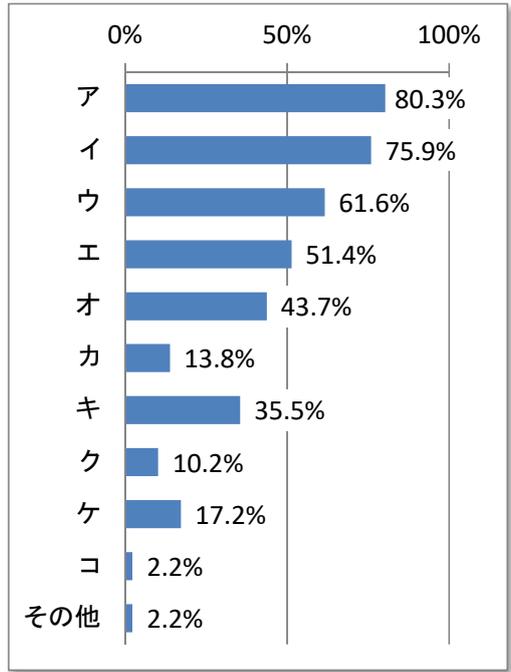
その他（抜粋）

共働きで、子育てを実家の両親に手伝ってもらうために、実家の近くを選んだ。
 高齢の母が近くに住んでいるから。

Q2 今のお住いの地域に今後も住み続けたいと思うために重要と思う項目はどれですか。
 ※「コ 特になし」を選択した場合は、他の回答を選択しないでください。
 (複数選択可)

n = 1,439

ア	電車・バス・道路網等交通の利便性がよい	80.3%	1,155
イ	日常生活の買い物等の利便性がよい	75.9%	1,092
ウ	治安がよい	61.6%	886
エ	公共施設・医療機関・福祉施設が充実している	51.4%	740
オ	災害に強い	43.7%	629
カ	子育て・教育がしやすい	13.8%	199
キ	周囲の景観が気に入っている	35.5%	511
ク	職場や通学する学校等がある	10.2%	147
ケ	生まれ育った場所である・地域とのつながりがある	17.2%	248
コ	特になし	2.2%	32
その他		2.2%	32



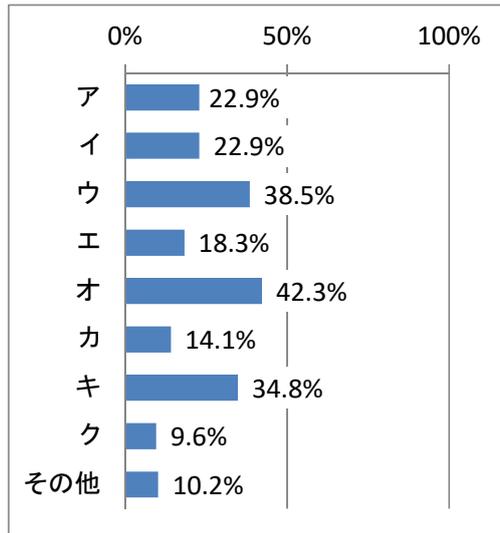
その他(抜粋)

障がい者に優しい町づくり(バリアフリー化等)
景観が良いというだけでなく、身近な自然が豊かで、その恩恵を感じながら、さまざまな生き物との共存を感じながら生活できる。
閑静であること。

Q3 今のお住いの地域にもっと充実してほしい機能はどれですか。
 ※「ク 特にない」を選択した場合は、他の回答を選択しないでください。
 (複数選択可)

n = 1,439

ア	文化芸術の豊かさ	22.9%	329
イ	レジャー・娯楽・レクリエーションの場	22.9%	329
ウ	良好な景観・環境	38.5%	554
エ	地域交流	18.3%	264
オ	防災機能	42.3%	608
カ	子育て・教育のしやすさ	14.1%	203
キ	福祉機能	34.8%	501
ク	特にない	9.6%	138
その他		10.2%	147



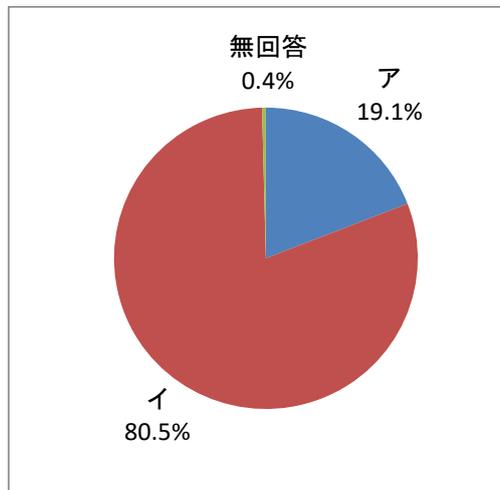
その他(抜粋)

交通網
日用品の買い物ができるところを増やしてほしい。

Q4 本市は農業産出額が県内で第1位であり、農業が盛んであることを知っていましたか。
 (単一選択)

n = 1,439

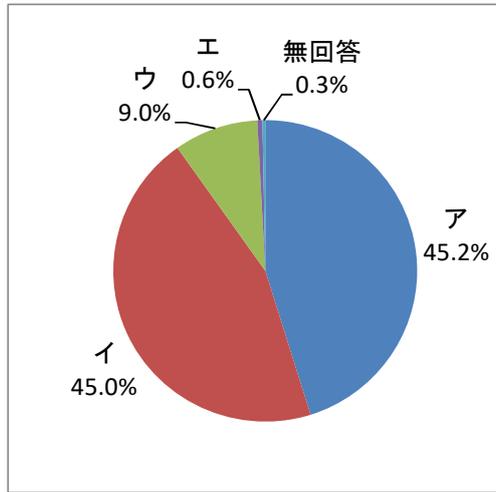
ア	知っていた	19.1%	275
イ	知らなかった	80.5%	1,158
無回答		0.4%	6
		100.0%	1,439



**Q5 お住いの近くに農地があるとよいと思いますか。
(単一選択)**

n = 1,439

ア	近くに農地があるとよい (Q6へ)	45.2%	650
イ	どちらでもよい (Q7へ)	45.0%	648
ウ	近くに農地はいらない (Q7へ)	9.0%	129
エ	その他 (Q7へ)	0.6%	8
無回答		0.3%	4
		100.0%	1,439



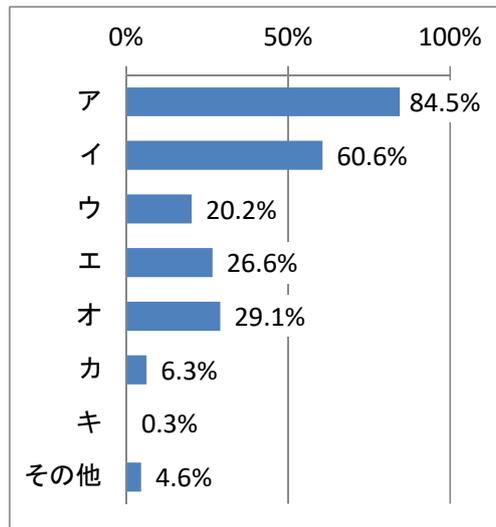
その他(抜粋)

農地が減ってほしいというわけではないですが、植物がある場所には虫などがいます。砂ぼこりなどの懸念もあり、住宅地との共存は難しいのではないかと考えます。もちろん虫などのリスクを回避できるのであれば、農地が増え地産地消の機会が増えるのは歓迎したいです。

Q6 Q5で「ア 近くに農地があるとよい」を選択した方にお聞きします。
 あなたにとって農の魅力と感ずる項目はどれですか。
 ※「キ 特に魅力を感じる点はない」を選択した場合は、他の回答を選択しないでください。
 (複数選択可)

n = 650

ア	新鮮な食材を食べられる・調達できる	84.5%	549
イ	農地のある景観が好き	60.6%	394
ウ	レジャーとして楽しめる	20.2%	131
エ	地域の人と交流できる	26.6%	173
オ	健康のため体を動かせる	29.1%	189
カ	収入を得られる	6.3%	41
キ	特に魅力を感じる点はない	0.3%	2
その他		4.6%	30



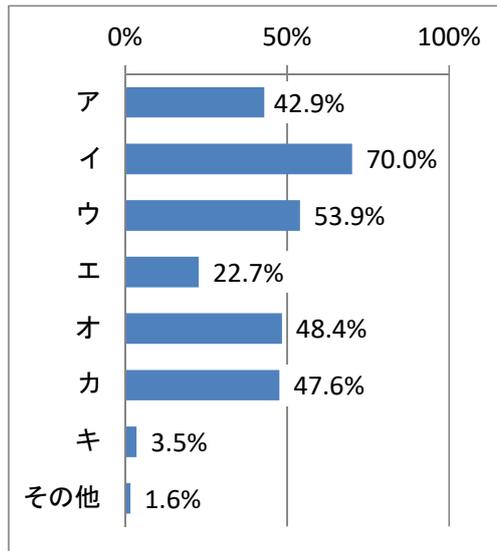
その他(抜粋)

防災
街に季節感が現れる。学校・保育施設と連携し、環境教育、食の教育ができる。高齢者・障がい者施設と連携し、耕作と心身の健康維持の役割が果たせる。
円安や世界的天候変動で輸入食材が減った場合、少しでも日本の食料自給率が上がるために必要だから。

Q7 全員にお聞きします。
 農地は食料生産の場としての機能だけでなく、他にも様々な機能があります。あなたが重要だと思う機能はどれですか。
 ※「キ 農地はいらない」を選択した場合は、他の回答を選択しないでください。
 (複数選択可)

n = 1,439

ア	洪水防止機能・土砂崩壊防止機能	42.9%	618
イ	ヒートアイランド現象の緩和機能	70.0%	1,008
ウ	生物多様性を保全する機能	53.9%	776
エ	伝統文化を保存・継承する機能	22.7%	326
オ	癒しや安らぎをもたらす機能	48.4%	697
カ	体験学習や教育の場となる機能	47.6%	685
キ	農地はいらない	3.5%	51
その他		1.6%	23



その他(抜粋)

地域住民の農作業への参画により、シニアの活性化、地域住民の一体化に繋がる。

Q8 本市は農を都市の魅力の一つとして考えており、農業の活性化を図り、農のあるまちづくりに取り組んでいます。まちづくりにおいて、どのような点で「農」を活用すべきだと思いますか。
 ※「ケ 農地は少ない」を選択した場合は、他の回答を選択しないでください。
 (複数選択可)

n = 1,439

ア	教育の場 (Q9へ)	54.6%	786
イ	自身や家族・友人とのレクリエーションの場 (Q10へ)	24.9%	358
ウ	防災時活用ができる場 (Q11へ)	35.7%	514
エ	雇用の場 (Q12へ)	27.7%	398
オ	地域交流の場 (Q13へ)	35.0%	503
カ	障害者や高齢者の福祉の場 (Q14へ)	23.8%	342
キ	良好な景観形成 (Q15へ)	42.3%	609
ク	その地区だけの特産品がある (Q15へ)	43.8%	631
ケ	農地は少ない (Q15へ)	3.2%	46
その他		1.3%	19



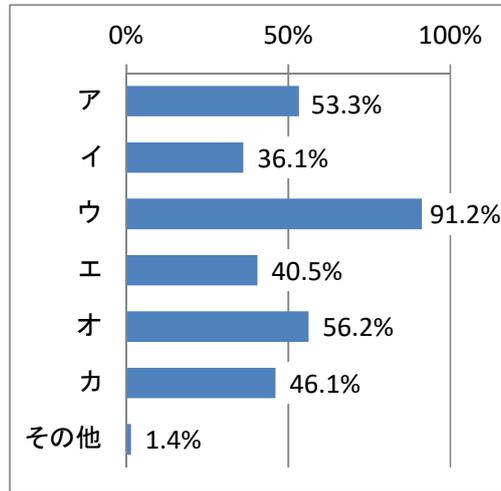
その他(抜粋)

循環型農業の推進。家庭や学校の生ゴミを堆肥化して、農地で利用してもらい、生ゴミも削減する。
 食料自給率向上、生物多様性保全。

Q9 Q8で「ア 教育の場」を選択した方にお聞きします。
 具体的にどのような教育の場を期待しますか。
 (複数選択可)

n = 786

ア	子どもの情操教育	53.3%	419
イ	子どもの文化教育	36.1%	284
ウ	子どもの農業体験	91.2%	717
エ	学童保育やキッズなど、放課後・長期休暇の児童の学習の場	40.5%	318
オ	中学生・高校生の職業体験の場	56.2%	442
カ	大人の生涯教育	46.1%	362
その他		1.4%	11



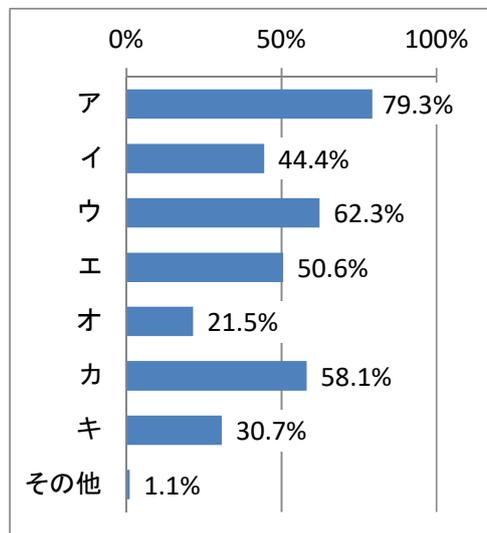
その他(抜粋)

特別なイベントをしなくても、いつもの散歩コースに農地があるだけで、個人や親子で「この葉や茎は何の野菜だろう。この野菜はこうして育つのだな」と考えたり話したりするだけで大きな教育となっていると実感できる。

Q10 Q8で「イ 自身や家族・友人とのレクリエーションの場」を選択した方にお聞きします。
 具体的にどのようなレクリエーションを期待しますか。
 (複数選択可)

n = 358

ア	果実のもぎとりや、芋ほりなどの収穫体験	79.3%	284
イ	お米や果物などのオーナー制度(日常の管理は全て農家が行い、収穫だけ行う)	44.4%	159
ウ	自分たちで自由に野菜の栽培を楽しめる農園	62.3%	223
エ	農家に植え付けから収穫まで指導をしてもらえる農園	50.6%	181
オ	農泊(農業体験に加え、宿泊できる)	21.5%	77
カ	農家レストランで地元の野菜を味わえる	58.1%	208
キ	農家料理教室	30.7%	110
その他		1.1%	4



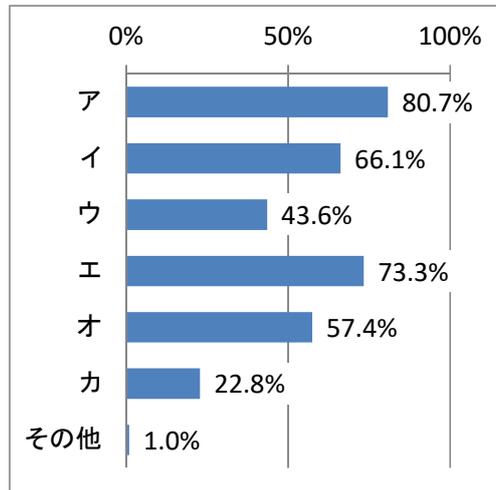
その他(抜粋)

収穫されたものの売買や交換(直売所や野菜スタンドのようなものを想定)。

Q11 Q8で「ウ 防災時に活用ができる」を選択した方にお聞きします。
 具体的にどのような防災機能を期待しますか。
 (複数選択可)

n = 514

ア	オープンスペース(一時避難・延焼防止)としての活用	80.7%	415
イ	炊き出し等支援の拠点	66.1%	340
ウ	仮設住宅用地	43.6%	224
エ	物流が途絶えたときの食料供給	73.3%	377
オ	農業用井戸の利用	57.4%	295
カ	災害廃棄物の一時置場	22.8%	117
その他		1.0%	5



その他(抜粋)

災害時こそ、農地は農地としての機能を最優先、最大限に発揮できるようにしてほしい。

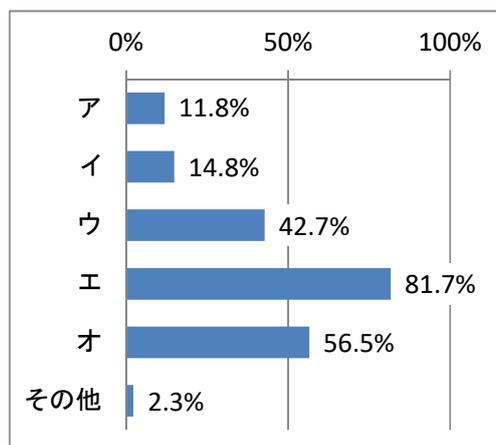
復興時の避難生活の中での耕作体験(精神的リフレッシュ)として活用。

ア、イ、ウ、エ、オは、あくまでも災害の規模や緊急度によって農家に許していただけたらのお話。一方で、農地を中心に交流が進んで日頃から近隣住民を知るだけで、防災防犯になるし、土や緑があるだけで、洪水、火事を防げて、地震被害も軽減できる。

Q12 Q8で「エ 雇用の場」を選択した方にお聞きします。
 具体的にどのような雇用に期待しますか。
 (複数選択可)

n = 398

ア	自身が農業に参入(新規就農)したい	11.8%	47
イ	農家・農業法人に雇用されたい	14.8%	59
ウ	隙間時間で働きたい(パートタイム・アルバイト等)	42.7%	170
エ	地域全体として、雇用の場が広がることを期待	81.7%	325
オ	生活困窮者の雇用の場となることを期待	56.5%	225
その他		2.3%	9



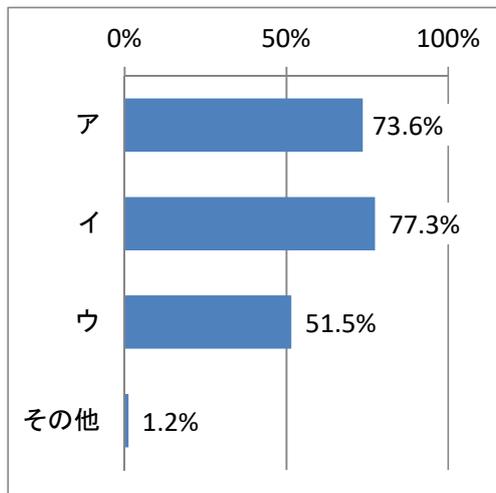
その他(抜粋)

日本は人口の減少等により、農業に従事したいという人が減っている状況。外国人主体の農家が起業し、定着してもらうことが良いと思う。

**Q13 Q8で「オ 地域交流の場」を選んだ人にお伺いします。
 具体的にどのような交流を期待しますか。
 (複数選択可)**

n = 503

ア	農産物の売買を通じた地元農家との交流	73.6%	370
イ	農体験等を通じた地元農家や参加者との交流	77.3%	389
ウ	農に興味をもつ市民や企業との交流	51.5%	259
その他		1.2%	6



その他(抜粋)

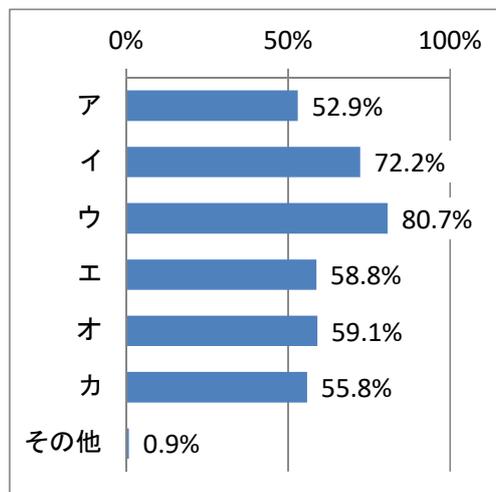
例えば、区役所の前などで開催する農家直売市などの時に、企業や農家のアドバイスが聞けるブースや種苗販売もあったら嬉しいです。

農耕地で、人が出入りできるような取組(一日農家、収穫体験、農業の手伝いをしながら子どもの面倒も見られる)を活発化して、農地で人がさまざまな活動ができて交流するようなシステムができるとよい。

**Q14 Q8で「カ 障害者や高齢者の福祉の場」を選択した方にお聞きします。
 具体的にどのような福祉の機能を期待しますか。
 (複数選択可)**

n = 342

ア	障害者の農業体験(健康増進・レクリエーション)	52.9%	181
イ	障害者の農業体験(自立支援)	72.2%	247
ウ	障害者の就労の場	80.7%	276
エ	生活困窮者や子ども食堂等への農作物の提供	58.8%	201
オ	高齢者の農業体験(健康増進・レクリエーション)	59.1%	202
カ	高齢者の就労の場	55.8%	191
その他		0.9%	3



その他(抜粋)

多様なニーズに応えるのは大変だろうけど、ぜひやってほしい。

まだ元気で動けるのに働く場がない高齢者が多いので、就業かつ交流をもつことで健康寿命が伸びると思う。

全員の方にお聞きします。

農をまちの魅力としていくために、期待することや改善してほしいこと、また、アイデアなどがありましたら、自由にお書きください。

(自由意見)

(抜粋)

住宅地と農地が隣り合っている風景は心の安らぎやゆとりを与えてくれますが、反面、肥料のにおいに対するクレームや夜道の安全をめぐる問題などもあると聞きます。まち全体のバランスをとりながら、地域ぐるみでデザインしていく必要があると思います。

DXを採用した今までとは違う形の農業を身近に触れられるような環境があるとよいです。

農を普及していくと言っても、やはり横浜は都会なので、地域でとれた野菜を使ってメニューとして提供してくれるレストランなどが増えてくれる事を期待します。後は都会の中の癒やしとしての農園というのはいいと思います。

農地から、他の用途への転用を止めて残して欲しいです。空いている農地を希望者人数貸し出すサポートを強化して、農地を有効利用するようにすることで、農地を守って欲しいです。

農地(農業従事する場所)に通勤して農業ができるように交通整備にも力をいれてほしいです。農業従事者は居住地域と営農地域が至近という前提で仕組みが作られてきているが、将来に向けては農地も会社や工場に通い作業をするように変化していくことを望みます。

農地が身近にあり、日々癒されています。でも、農業体験をしたり、特産品を買いに行ったりしたことはありません。そのため、農業は近くて遠い存在に思えます。もし、農を身近に感じられるイベントがすでに実施されているとすれば、情報が届いていないのです。SNSや広報誌などでより多く情報発信していただき、予約や問い合わせも簡単にできるようになれば、もっと農業を身近に感じられるようになるのではないのでしょうか。

住宅地とのバランスが大切だと思います。横浜市内においても偏りなく、どの地域でも農地がある程度街の中にあるという状態がいいと思います。特に農体験の場についてはどの地域でもあるといいと思います。(自分の地域で農体験ができる)

特産として売り出せるブランド力のある農作物があると(もしくは、他の農産地と比べて味に違いがある、全国的な流通量が少ない、など、ブランド力をより強化できる)ふるさと納税の返礼品としても活用でき、税收の安定化にもつながると感じました。

一過性のものでなく、持続可能な農の確立が求められると感じます。そのためには、企業がビジネス面でも魅力を感じることで、農家が誇りと将来性を感じて生き生きと事業を継続できること、若い世代を惹きつけるような新たな魅力の創出を図ることなどに注力し、「横浜の農」のブランド化を目指す必要があると感じます。現代社会が抱える問題に対する解決策の一つとして率先して取り組み、「横浜の農」が広く認知されるようなモデルケースとなれば良いです。

田舎ではないので都会ならではのスタイリッシュでかっこいい農業にしてほしいです。虫が嫌いな人も多いし、周りが雑木林や空き地、みたいな近くの農地は人が来ないと思います。スタジアムの中が農地、みたいなのだとありがたいです。室内でできる野菜の栽培施設にするなど。